

東京女子医科大学雑誌

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

第 63 卷

平成 5 年 2 月 25 日 発行

第 2 号

目 次

[原 著]

- 肝硬変合併胆石症の臨床的特徴と予後判定因子の術前評価法
に関する検討 ……………小川 佳子… 133～ 142
- Alteration of natural killer (NK) activity with gabexate
mesilate (FOY) and its metabolite, ϵ -guanidinocaproic
acid (GCA) [メシル酸ガベキサート (FOY) とその代謝産物
 ϵ -グアニジノカプロン酸 (GCA) の NK 活性に及ぼす影響] ……堀江 良彰… 143～ 150
- 肺成長障害モデル動物における喫煙曝露の肺に及ぼす影響 ……松宮 晴子… 151～ 157
- 冠動脈疾患を合併する腹部大動脈瘤症例における
冠血行再建術の適応について ……………上田みどり… 158～ 165
- 若年発症インスリン依存型糖尿病患者における運動負荷後の
尿中マイクロアルブミン排泄率に関する研究 ……………小川百合子… 166～ 173
- 糖尿病妊婦の胎盤における糖輸送胆体と出産時児体重に関する研究 …鈴木奈津子… 174～ 180
- 事象関連電位 (P300) の加齢変化
—topographic mapping による検討— ……………飯嶋 睦… 181～ 190
- ラットにおける妊娠時1,5-anhydroglucitol (1,5-AG) の変動
第1報 正常妊娠ラットにおける妊娠経過に伴う血中
1,5-AG の推移 ……………森田 祐子… 191～ 195
- 第2報 ^{14}C 標識1,5-AG を用いた正常ラット妊娠経過に伴う
1,5-AG の母体内分布と胎仔相関 ……………森田 祐子… 196～ 201
- 正常血清クランプ法を用いたインスリン非依存型糖尿病の
インスリン抵抗性に関する研究 ……………黒木 宏之… 202～ 210
- 糖尿病母体から出生した児の臍帯血中インスリン様成長因子
結合蛋白に関する研究 ……………哲翁たまき… 211～ 218
- [学術情報] …………… 219
- [雑 報] …………… 219

本誌略名
東女医大誌
J Tokyo Wom
Med Coll

東京女子医科大学学会
SOCIETY OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

東京都新宿区河田町8番1号 東京女子医科大学図書館内

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Vol. 63

February, 1993

No. 2

CONTENTS

Originals

- Clinical characteristics of cholelithiasis in cirrhotic patients and preoperative evaluation of prognostic factors Yoshiko OGAWA...133~142
- Alteration of natural killer (NK) activity with gabexate mesilate (FOY) and its metabolite, ϵ -guanidinocaproic acid (GCA) Yoshiaki HORIE...143~150
- The effect of cigarette smoke exposure on hypoplastic lungs in rats Haruko MATSUMIYA...151~157
- Role of myocardial revascularization for coronary artery disease in patients with abdominal aortic aneurysm Midori UEDA...158~165
- Urinary microalbumin excretion rate after exercise load in young patients with insulin-dependent diabetes Yuriko OGAWA...166~173
- Neonatal birth weights and protein contents of glucose transporters in human placental tissue at delivery of diabetic mothers Natsuko SUZUKI...174~180
- Age-related changes of P300 in normal subjects; Study by using topographic mapping Mutsumi IJIMA...181~190
- Fetal and maternal 1, 5-anhydroglucitol (1, 5-AG) in pregnant rats
Part I: Alteration of serum 1, 5-AG in normal pregnant rats Yuko MORITA...191~195
Part II: Distribution of 1, 5-AG in normal pregnant rats Yuko MORITA...196~201
- Study on the insulin resistance of non-insulin dependent diabetes mellitus by the euglycemic hyperinsulinemic clamp method Hiroyuki KUROKI...202~210
- Profiles of insulin-like growth factor binding proteins in umbilical cord blood of diabetic mothers Tamaki TETSUOH...211~218

学術情報

○招待講演

日時 平成4年10月29日

会場 小児科医局

主催 小児科

講師 F. Andermann

McGill University

テーマ Focal cortical dysplasia

○招待講演

日時 平成4年11月13日

会場 臨床講堂 I

主催 内分泌外科

講師 H.D. Röler

Heinrich-Heine Universität

テーマ ドイツにおける甲状腺癌の現況

○招待講演

日時 平成4年11月16日

会場 臨床講堂 I

主催 母子総合医療センター

講師 M. Hack

Case Western Reserve University

テーマ Early childhood and school age outcome
of the extremely premature infant

雑 報

○編集幹事会

日時 平成4年11月2日(月)午後4時より

場所 中央校舎1階会議室

議題 東京女子医科大学雑誌63巻2号

査読結果審議, その他

○第292回例会

日時 平成4年11月12日(木)午後3:30より

場所 臨床講堂 II

シンポジウム

東洋医学の新たな展開—基礎と臨床から—

編集後記

今月号の編集会議が行われたのは、都内でも紅葉が始まった頃である。春になれば新しい芽が芽生え、やがて成熟し、紅葉してゆく。毎年繰り返される、生物学の流れである。医学というものが臨床、基礎を含め生物学の一領域である以上、病気を生物学的側面から捕らえることを要求される。そのために大学内の医学研究が必要であり、多くの医師が日夜研究にいそむことになる。臨床に携わる医師が、担当した患者を診察する際に、病気だけでなくトータルとして患者を把握する必要があるということは、臨床医学を根本病理の一つであろう。疾患という現象をその患者全体から補らえることができるということが臨床を経験した医師達の研究面での最大の利点である。新編集委員の一人として、本誌における数多くの研究論文が、その利点を最大に生かし、本誌が爽りの多い学術誌として発展できるよう、ささやかな貢献ができればと考えている。
(1992, 10, 2, K.Y.)

東京女子医科大学学会会則

昭和56年9月26日改訂 昭和58年9月24日改訂
昭和60年9月28日改訂 昭和63年9月24日改訂
平成3年9月28日改訂

総 則

- 第1条 本会は東京女子医科大学学会と称する。
第2条 本会は医学及び医術の進歩向上を計るを目的とする。
第3条 本会の目的を達するため次の事項を行なう。1. 集会 2. 雑誌発行
第4条 本会の事務所は当分、学校法人東京女子医科大学、学会室に置く。

会 員

- 第5条 本会の会員は本会の目的に賛同した医師、あるいは評議員の推薦を受けたものとする。
第6条 会員は次の3種とする。
普通会員 会費を納入する者
名誉会員 本会に対して特別な功労のあるもので評議員の推薦による者
準会員 本学在學生
第7条 本会に入会するには、申込書に必要事項を明記し学会室に提出すること。
第8条 会員が転居、退会する時はその旨を学会室に申し出ること。但し、既納の会費は返済しない。

役 員

- 第9条 本会に次の役員を置く。会長1名、副会長1名、幹事若干名、評議員若干名。
会長は東京女子医科大学学長とし、本会一切の事務を総理し、副会長は評議員会で推挙し、会長が事故のある時は会長を代理して事務を分掌する。
第10条 幹事は会長が指名する。任期は2年とする。但し再任を妨げない。
第11条 評議員は東京女子医科大学学会会員の中より評議員及び会長の推薦を経て総会で承認を得た者とし、本会の重要な事項を審議する。任期は4年とする。但し、再任を妨げない。

集 会

- 第12条 本会の集会は例会、総会、幹事会、評議員会とする。
例会は1年4回開催し学術に関する講演討論を行なう。
総会は1年1回庶務、会計報告ならびに学術講演を行なう。
幹事会は定時及び随時に開催する。
評議員会は1年1回以上行なうものとする。

機関誌発行

- 第13条 本会の機関誌を『東京女子医科大学雑誌』と称し毎月1回発行し本会員に配布する。なお、本学職員の研究業績を機関誌の特別号として年1回発行する。

経 費

- 第14条 経費は会費、入会金、寄付金、その他の収入をこれに充てる。
第15条 普通会員は会費を本会に前納すること。

細 則

- 第16条 本会で講演又は討論する者は本会会員に限る。但し、会長の許可を得た者はその限りではない。
第17条 会員は自己の業績を機関誌に投稿することができる。
第18条 本会会則は評議員会の決議と総会の承認を得て変更することができる。
第19条 会則の施行に必要な内規を別に定める。

附 則

この会則は、平成3年10月1日より施行する。

東京女子医科大学学会内規

昭和60年9月28日制定 昭和63年9月24日改訂
平成2年9月25日改訂 平成3年9月28日改訂
平成4年9月26日改訂

第1条 名誉会員

1. 学会会則第6条により会長の承認を得た者は名誉会員となる。
 - 1) 本学名誉教授
 - 2) 前項の規定の他に、原則として年齢65歳に達し20年以上評議員を勤めた者を対象とする。
2. 名誉会員は会費納入を要さないが、会員と同等の資格を有する。
3. 名誉会員は本会の役員に就任できないが、本会の運営に関して意見を具申することができる。

第2条 入会および退会

1. 入会
 - 1) 入会申込書*は学会室へ提出する。
 - 2) 入会金、年会費は前納制とし、本学財務課出納室へ納入する。賞与対象者については、入会後の会費は下半期の賞与から自動引き落としとする。
 - 3) 納入は郵便振替用紙*を利用することもできる。
 - 4) 本学学生は申し出により準会員になることができ、希望により機関誌の配布を受けることができる。会費納入を要しない。
2. 退会
 - 1) 退会の際は、本人または代理人が退会の旨を書面*又は口頭にて学会室まで必ず申し出ること。
 - 2) 年会費を1年滞納した者は機関誌の配布を中止し、2年滞納した者は自然退会とする。
3. 再入会
 - 1) 入会申込書を改めて提出する。
 - 2) 入会金は不要。
 - 3) 自然退会者が再入会する時は、滞納期間中の会費を全額納入する。
*入会の手引き、入会申込書、退会届、郵便振替用紙（東京 5-4342）は学会室に常備。
（学会室：〒162 東京都新宿区河田町8-1 東京女子医科大学 中央校舎3階 TEL 03(3353)8111(代) 内線22314)

第3条 幹事の職務分担

幹事は会則第10条に則り、集会、編集、庶務、会計の事務を分担する。

1. 幹事の構成
 - 集会担当幹事 若干名
 - 編集担当幹事 若干名
 - 庶務担当幹事 1名
 - 会計担当幹事 1名

集会・編集担当幹事の各々に委員長、副委員長をおく。委員長は各幹事会を主催し、定時および随時に幹事会を開き必要事項を討議する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に支障のある時はこれを代行する。別に研究業績集編集担当幹事若干名をおき、委員会を設ける。研究業績集編集委員会の構成、職務については別に定める。
2. 集会担当幹事の職務と集会の運営
集会担当幹事は会則第12条に則り、例会、総会、評議員会等の進行や運営その他一切の業務を分担し、もって学会の充実向上を計る。
 - 1) 例会
毎年4回、2月、5月、6月、11月に行なう。2月の例会は山川寿子研究奨励金および佐竹高子研究奨励金授与式と前年度受賞者の研究発表にあてる。5月の例会は吉岡弥生学頭の命日に当たる5月22日に開催し、吉岡弥生研究奨励金授与式と前年度受賞者の研究発表、吉岡弥生記念講演にあてる。一般演題は募集しない。吉岡弥生記念講演については別に定める。6月、11月の例会は一般演題、学術講演、シンポジウム等を企画する。
 - 2) 総会
年1回、原則として9月に行なう。総会では庶務、会計報告を行ない、評議員会で審議された事項を提出し、承認を得る。
総会では吉岡博人記念総合医学研究奨励金授与式と受賞者の研究発表を行なう。他に特別講演、シンポジ

ウムを企画し、卒後教育の一環として教育講演を行なう。一般演題は原則として募集しない。

3) 評議員会

年1回以上の評議員会では、学会運営に関する重要な事項を審議する。

- (1) 庶務・会計報告
- (2) 名誉会員、副会長、新評議員の推挙
- (3) 会則の変更
- (4) その他

3. 編集幹事の職務

編集担当幹事は、会則第13条に則り以下の事務を分掌する。

- 1) 毎月1回幹事会を開催し、機関誌を編集する。
- 2) 機関誌の編集方針を定める。
- 3) 投稿規定の作成。
- 4) 投稿論文の査読を行ない、採否を検討する。

第4条 機関誌発行

1. 機関誌は毎月1回発行、原則として10・11号は合併号とする。
2. 機関誌は依頼により年2回まで臨時に増刊することができる。但し、退職記念特集が優先、費用は依頼者の全額負担とする。

第5条 研究業績集編集委員会

会則第13条に基づき、本会内に研究業績集編集委員会を置き、その職務を担当する。

1. 委員会の構成

- 1) 委員会は教養学科、基礎医学、臨床医学の各部署から選出された委員により構成される。
- 2) 委員会には委員長および副委員長を置き、委員長は会長が、副委員長は委員長が指名する。
- 3) 委員長は委員会の全ての事務を統括し、副委員長はこれを補佐する。

2. 委員の職務

- 1) 各委員は、各部署における当該年度内の研究業績を規定の様式に則り収集し、期日までに委員長に提出する。
- 2) 対象となる業績は、1月1日より12月31日までの期間に報告された著書、学術論文、学会発表などとする。

3. 小委員会の設置

- 1) 本委員会の中に小委員会を設け、会の運営その他に関する事項を審議する。
- 2) 小委員会の委員は、委員の中から若干名を委員長が指名する。

4. 委員会の開催

- 1) 委員長は、定時および随時に委員会または小委員会を招集する。
- 2) 業績集編集委員会は、年1回以上開催できるものとする。

5. 委員の任期

- 1) 委員の任期は2年とする。
- 2) 任期を待たずに退任する場合、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

第6条 吉岡弥生記念講演

1. 本学創立者吉岡弥生学頭の建学の精神を後世に継承し記念して行なわれる。
2. 講師は医学関係に限らず、広く文化、芸術、学術全般にわたって活躍している、原則として女性講師を招聘する。

第7条 分科会

東京女子医科大学学会に分科会をおくことができる。

1. 分科会は、広く学内各分野に共通した特定の課題を中心に、定期的に学術講演、研究発表を行なう。
2. 分科会の代表者は会の目的、発起人を明記の上、集会担当幹事に届け出る。
3. 分科会の発足には会長の承認を必要とする。
4. 分科会は公開で行ない、抄録は機関誌に掲載することができる。

第8条 学会内規の変更

この内規は幹事会の決議により会長の承認を得て変更することができる。

東京女子医科大学雑誌投稿規定（平成5年1月改訂）

1. 投稿は連名者も含め本会会員に限る。但し、準会員のみでは投稿できない。
2. 投稿内容は原著、総説、臨床報告、調査報告、などとする。いずれも未発表のものに限る。
3. 原稿の採否、掲載順は編集委員会において決定する。受理した原稿は原則として返却しない。
4. 総説は原則として編集委員会の依頼によるものとし、その著者は本会会員に限定しない。
5. 本学会が認定した分科会で発表されたものは、その抄録を本誌に無料で掲載する。このほか編集委員会が必要と認めた学術集会の抄録その他に関するものは有料で掲載することができる。
6. 依頼により年2回まで臨時に特別号を発行することができる。費用は依頼者の全額負担とする。
7. 掲載料は普通紙で和文は刷上り原著4頁・臨床報告2頁まで無料、超過1頁につき6,000円、英文は刷上り2頁まで無料、超過1頁につき8,000円とし、依頼原稿は全頁無料とする。
8. 原則として毎月20日を4カ月前の号の締切とする。
9. 別刷は実費とし、50部単位で表紙に明記する。依頼原稿は50部まで無料とする。
10. 校正是初・再校とも著者校正を原則とする。大幅な改変は認めない。
11. 原稿の書き方
 - 1) 原稿は正1部、副(コピー)1部を提出する。但し写真は正と同じものとする。
 - 2) 和文原稿は、A4版もしくはB5版、400字詰め原稿用紙に横書きとし、ワープロの場合は、20字20行を原則とする。当用漢字、現代かなづかいを用いる。
 - 3) 英文原稿はダブルスペースでタイプする。
 - 4) 表紙には、表題、所属、主任または指導者氏名(原著の場合はその校閲印が必要)、著者氏名(フリガナ)、英文表題、ローマ字著者名(名・姓の順、姓は大文字)、英文所属を書く。
 - 5) 和英論文とも、和文の要旨(表題、所属、著者氏名、800字以内)を添える。
 - 6) 和文原著には原則として英文抄録(200語以内)を添える。

英文論文および英文抄録は native speaker の校閲を受け、そのサインを必要とする。
 - 7) 論文の構成は原則として、緒言、対象および方法、結果、考察、結論、文献、図表(各々別紙)とその一括した表題・説明(和文論文の場合は和文とする)、の順とする。
- 8) 図・写真はそのまま印刷できる明瞭なものとし、裏面に番号、上下を記す。

カラー写真・アート紙使用はその旨明記し、トレースを要する場合もともに実費を徴収する。
- 9) 度量衡の単位、記号は国際単位系(SI)を原則とする。
- 10) 専門用語は学会で統一されたものを用い、略語は初出時に正式用語またはスペルを記載する。
- 11) 文献は引用順に本文中に肩付番号を付し、次の形式で記載する。著者は3名まで記載し、外国人名は姓名の順とする。雑誌名の略記は医学中央雑誌および Index Medicus に従う。
 - 1) 川村雅枝, 重本六男, 森吉百合子ほか: ラット cysteamine 十二指腸潰瘍の発生機序について. 東女医大誌 56: 668-676, 1986
 - 2) **Quimby GF, Bonnica CA, Burnstein SH et al:** Active smoking depresses prostaglandine synthesis in human gastric mucosa. *Ann Intern Med* 104: 616-619, 1986
 - 3) 斎藤慎太郎: 甲状腺疾患, pp 1-16, 永井書店, 大阪(1985)
 - 4) 後藤雄一郎, 後藤由夫編: 動脈硬化症の新しい診断と治療. 医薬ジャーナル社, 大阪(1985)
 - 5) 城所良明: 神経筋接合の形成. 「筋発生の細胞生物学」(小沢英二郎, 嶋田 裕, 真崎知生編), pp 259-282, 学会出版センター, 東京(1983)
 - 6) **Swaiman KF, Ashwal S:** MEP 小児神経病 ケーススタディ, 46例の研修.(福山幸夫監訳), 医学書院, 東京(1980)
 - 7) **Kahn CR, Roth J:** Insulin receptors in disease states. *In* Hormone-Receptor Interaction (Levy GS ed) pp 1-29, Marcel Dekker, New York (1981)
12. 本誌の投稿, 編集, 印刷に関する問い合わせ等は、すべて下記宛てとする。

東京女子医科大学学会編集会
〒162 東京都新宿区河田町8-1
電話 03-3353-8111 内線 22314
FAX 03-5269-7403

編集委員

相川英三	押味和夫
相羽元彦	高桑雄一
井口登美子	高山幹子
菊池長徳	竹宮敏子
小暮美津子	寺岡慧
楠元雅子	◎對馬敏夫
村木篁	渡辺伸一郎
中澤誠	山田明義
○二瓶宏	山内克巳
大澤真木子	横山正義

ABC順, ◎委員長, ○副委員長

東京女子醫科大學雜誌 第63卷 第2号

平成5年2月15日 印刷
平成5年2月25日 発行

発行者

吉岡守正

会員無料配布

年会費 6,000円

売価1部 1,000円

発行所

東京女子医科大学学会

〒162 東京都新宿区河田町8-1

電話 03-3353-8111 (代表) 内線 22314

FAX 03-5269-7403

印刷所

株式会社 杏林舎

〒114 東京都北区西ヶ原3-46-10

電話 03-3910-4311

FAX 03-3949-0230
